



「祭りを祈りの場として生きる力を得る」 人々の祈りが後世へ受け継がれますように

北出正之さんから、写真集『祭時記ーすばらしき三重の祭りと民俗行事ー』が届いた。北出さんは長年にわたり三重県本部の事務局長を務められた方で、写真で数々の賞に輝くその腕前に、東京で開催される表彰式の撮影をさせていただいている。

余暇の大半を費やして三重県内の海や山、町、農村を巡った取材活動は700回にのぼり、撮りたい祭りの一瞬を逃したときは、また1年後にチャンスを狙うとのお話を伺ったことがある。物静かな北出さんがカメラに収めた祭りや民俗行事には、五穀豊穡を願う、疫病退散を祈る、自然と真摯に向き合う人々のたぎる熱情や興奮があふれていた。

カメラは被写体を写すだけでなく、カメラを向ける人の心を表す。まさに、生まれ故郷である三重の風土を愛する北出さんの想いが伝わる珠玉の写真集である。

メッセージ

振り返ってみると50年に及ぶ写歴の中で、最近10年間はテーマを三重県内の祭りや民俗行事に絞って撮り続けてきました。祭りの本質は「祈り」と考えます。自然界の一員である“人”は、壮大な力に満ちた大自然と対峙しながら生きていく中で、五穀豊穡や無病息災など数多くの願いを求めつつ、人知の及ばない願い事に自身の無力さを感じたとき、神仏への「祈り」に心の拠りどころを求めます。

いま一番危惧するのは、新型コロナウイルスの蔓延によって、本来心の拠りどころとして生きる力であり続けてきた祭りや民俗行事を過去のものとして置き去りにしてしまうのではないかと。人々の祈りが後世へ受け継がれますように願うばかりです。



北出正之さん

写真集『祭時記』(月兎舎刊) 三重県内の主要書店
及びネット通販(楽天・アマゾンなど)で販売中。
Official site ■ <http://mkitade-film.jp/>